

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 1

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	除雪事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、冬期間の幹線道路及び生活道路の交通確保を図るため、除排雪を直営及び委託によって実施する事業であります。			全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	事業費	
				国・道支出金	千円	
				地方債	千円	
				その他	千円	
				一般財源	277,025 千円	
				事業費計	277,025 千円	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	16 交通体系の整備				
	単位施策	1 道路環境の向上				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	5,565 千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	44,774 千円	55,200 千円	55,200 千円	56,050 千円	56,050 千円
	合計	50339 千円	55200 千円	55200 千円	56050 千円	56050 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	雪による交通障害。	冬期間の通行の確保		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	冬期間の幹線通路と生活道路の交通及び安全性の確保を目指す。	指標(指標計算式/解説)	目標年度及び実績値	
		① 除雪延長/除雪延長の実績	目標年度	平成20年度
			目標値	153.8 m
			実績値	153.8 m
達成度	100.0 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の交通及び安全性が確保される。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①直営と民間委託による除雪の実施	除雪は、直営分で借り上げた運転手4名及び添乗員3名と職員運転手3名で17.8kmを、委託分は雄武ノースクリエート事業協同組合により136.0kmを行った。			
②直営による排雪の実施	排雪は、不足運転手及び機械を民間より借り上げ直営で実施した。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性の確保は、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、冬期間の通行確保が困難となり、町民生活に支障を及ぼす恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性は確保されました。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	平成20年度は、前年度に比べ降雪量が多かったものの、コストに見合った効果が得られたことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性の確保が出来たので公平であると考えます。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間の除排雪は、交通確保上必要不可欠なものであることから、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
冬期間の除排雪は、降雪量により左右されるが、交通確保のためには必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9-2

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	曙1号線道路整備事業															
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係											
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐										
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫										
事業の概要	本事業は、曙地区(曙福祉館付近)の下水道整備に併せて道路整備を行い、この地区の下水道の普及促進と行き止まりを解消するための事業であります。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 20 年度)	<table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>19,800 千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>2,200 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>22,000 千円</td> </tr> </table>	国・道支出金	千円	地方債	19,800 千円	その他	千円	一般財源	2,200 千円	事業費計	22,000 千円
国・道支出金	千円															
地方債	19,800 千円															
その他	千円															
一般財源	2,200 千円															
事業費計	22,000 千円															
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()													
第5期総合計画(前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	A												
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～														
	基本施策	16 交通体系の整備														
	単位施策	1 道路環境の向上														
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務													
	その他計画・根拠等															
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)										
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円										
	地方債	19,100 千円	千円	千円	千円	千円										
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円										
	雄武町負担額(一般財源)	2,215 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円										
	合計	21315 千円	千円	千円	千円	千円										

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	下水道の未普及地域の解消と行き止まり道路の解消。	道路整備延長の維持		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	下水道の普及促進と行き止まり道路の解消を目指す。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	平成20年度
		① 整備延長/整備延長の実施	目標値	237.07 m
			実績値	237.07 m
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	この地区の住民が快適で潤いのある生活環境が確保できたことと地域交通の利便性が図られた。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、道路整備を実施した。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	曙地区の行き止まり道路の解消による地域交通の利便性の向上と土地の利用促進のため、平成20年度完成のためには、町が担う必要な継続事業であります。当該事業を実施しない場合、道路整備が完了できなくなり、行き止まり道路の解消と土地利用の促進が図られなくなる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業は、平成20年度に完成出来たので、目標は達成された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	路盤材に再生コンクリートを採用し、コストを軽減したことと入札により事業費が抑制されたことは、概ね効率的に完成した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	行き止まり道路の解消と土地の利用促進のためには、概ね公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 計画通り事業が進められたので目標が達成された。		



終了 平成20年度で道路整備が完了した事業です。		
-----------------------------	--	--

* 展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 3

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	旭日通り排水整備事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、多雨傾向にある降雨に対し、町道東浜線(町道旭日通りとの交差部)の雨水処理能力が小さいことから発生する道路の冠水を防ぐため、町道旭日通りに流れてくる雨水を遮断するための排水整備を行うための事業であります。				全体計画 / 単年度のみ (平成 20 年度 ~ 20 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 4,400 千円 事業費計 4,400 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化				
	単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	4,400 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	合計	4400 千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	大雨時に道路の冠水。	排水整備延長			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路の冠水防止を目指した。	① 排水整備延長/排水整備延長の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	64 m	
			実績値	75.2 m	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	車両や歩行者の安全な通行の確保と住宅への浸水防止ができた。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	117.5 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、排水管整備を実施した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	車両や歩行者の通行の安全を確保するため、道路の冠水を防ぐための排水管等の整備をすることは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、道路が冠水し通行に支障をきたします。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	排水整備を完了することにより、車両や歩行者の安全な通行確保と住宅への浸水防止が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	他の排水整備箇所と合算して発注できたことと入札により事業費が抑制されたことで、概ね効率的に実施された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

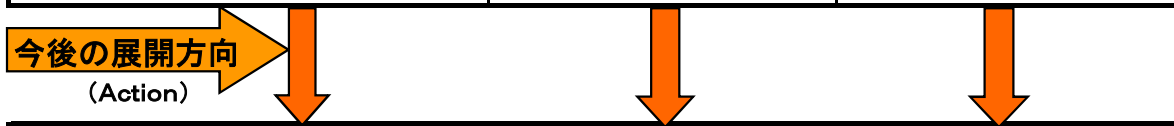
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	道路の冠水を防ぐための排水管の整備は、交通安全上概ね公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り事業を進めることが出来たので目標が達成された。		



終了		
平成20年度で事業は完了しました。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 9 - 4

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		町内小工事代事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		作成者	課長補佐	
		氏名	大場利昭			氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道の舗装、排水、法面等の応急的補修工事に対応するための事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 50,000 千円 事業費計 50,000 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	16 交通体系の整備					
	単位施策	1 道路環境の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	9,997 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	
	合計	9997 千円	10000 千円	10000 千円	10000 千円	10000 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	道路未補修による交通障害。	応急補修による安全確保				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道の舗装、排水等の応急補修による現況復元を目指す。	① 補修工事の発注／補修工事の実績	指標(指標計算式／解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	平成20年度		
			目標値	7 件		
			実績値	7 件		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道の通行の安全確保が維持される。	②	達成度	100.0 %		
			目標年度			
			目標値			
			実績値			
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
①民間業者による工事の実施	入札及び見積り等により民間に工事発注し補修を実施した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保することは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、町道の危険箇所が増え、通行に支障が出て、事故の発生を促す恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該工事を実施したことにより、通行の安全の確保が図れた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	入札及び見積り等により、事業費が抑制された補修工事が出来たので、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保できたので、公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
応急的な補修工事ができたことは、町道の安全な通行上、今後も応急に対し必要な事業であると判断する。		



継続／現状維持		
町道の安全な通行のために、応急的な補修工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 5

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	町有地道路舗装事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、生活用道路で既に寄付を受けている砂利道を解消するために、町道認定し、舗装を行い、道路環境の向上を図る事業であります。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 22 年度)	
事業費	国・道支出金			千円		
	地方債			千円		
	その他			千円		
	一般財源			14,700	千円	
	事業費計			14,700	千円	
実施方法	■ 直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業		優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	16 交通体系の整備				
	単位施策	1 道路環境の向上				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	9,104 千円	3,400 千円	1,900 千円	0 千円	0 千円
	合計	9104 千円	3400 千円	1900 千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
【抱える課題やニーズは】	市街地の砂利道走行による埃等の道路環境の悪化。	道路舗装延長
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	砂利道を舗装することにより道路環境の向上を目指した。	指標(指標計算式/解説)
		① 道路舗装延長/道路舗装延長の実績
		目標年度 平成20年度
		目標値 665 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	車両の快適な走行と防塵対策が出来た。	実績値 575 m
		達成度 86.5 %
		②
		目標年度
		目標値
		実績値
		達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)		
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、道路舗装整備を実施した。	

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	生活用道路を舗装整備することにより、車両の快適な走行と防塵処理対策のための道路環境の向上を図ることは、町が担う必要があります。当該事業を実施しない場合、埃などにより道路環境が悪い状態のままです。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業は、平成22年度の完成を目指した道路舗装事業であるため、平成20年度の目標は達せられた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	再生アスファルトを使用したことと入札により事業費が抑制されたことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	生活用道路を舗装整備することにより、車両の快適な走行と防塵処理対策ができたことは、道路環境の向上から概ね公平であると考えられる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 道路環境を向上することは、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持 平成22年度の完成に向け継続、現状維持が適当である。		
---------------------------------------	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 6

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		町道排水管路清掃事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		作成者	課長補佐	
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫	
事業の概要	本事業は、雨水等の円滑な排水を促し、道路排水の流量確保や豪雨などによる家屋等への浸水を防ぐため、定期的に町道の排水管路(横断管及び柵含む)の清掃を実施する事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 23,000 千円 事業費計 23,000 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	16 交通体系の整備					
	単位施策	1 道路環境の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	4,578 千円	4,600 千円	4,600 千円	4,600 千円	4,600 千円	
	合計	4578 千円	4600 千円	4600 千円	4600 千円	4600 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	大雨時による道路の浸水。	清掃排水管路延長の維持			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路排水の流量を確保することにより、快適な通行や浸水防止を目指す。	① 清掃管路延長/清掃管路延長の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	3300 m	
			実績値	3490 m	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	円滑な排水を促し、豪雨等による家屋等への浸水を防ぐことが出来る。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	105.8 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
①民間委託により実施	排水管路の清掃は、見積によりm単価を決め、受注業者調査結果を参考の上、排水管路清掃路線を決定し実施した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	道路排水の流量確保をすることは、快適な通行や浸水防止からも町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しなかった場合、排水管閉塞による浸水被害等が発生する恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、円滑な排水を促し、豪雨による家屋等への浸水を防いでいます。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	見積合わせの最低単価の採用により清掃延長が確保できたことと受注業者の調査により、排水管路の閉塞箇所の特定ができ、適切な排水管路の清掃ができたことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	道路排水の流量確保をして快適な通行や浸水防止をしたことは、公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
円滑な排水と浸水防止のためには、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
道路排水の流量確保は円滑な排水と浸水防止のためには、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 7

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		町道等維持業務委託事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		職名	課長補佐	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道の砂利道における車両及び歩行者等の円滑な通行を確保するため、砂利補修及び路面整正を実施する事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	事業費	千円
					国・道支出金		千円
					地方債		千円
					その他		千円
					一般財源	22,500	千円
					事業費計	22,500	千円
実施方法	直営	■	民間委託	その他 ()			
第5期総合計画(前期)	■	登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	16	交通体系の整備				
	単位施策	1	道路環境の向上				
	事務事業の種類	■	自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	4,115 千円	4,500 千円	4,500 千円	4,500 千円	4,500 千円	
	合計	4115 千円	4500 千円	4500 千円	4500 千円	4500 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	砂利道の通行障害。	砂利道路線延長の維持		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道砂利道の円滑な通行の確保を目指す。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
		① 砂利敷延長/砂利敷延長の実績	目標年度	平成20年度
			目標値	4000 m
			実績値	4150 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道砂利道の安全な通行確保が維持される。	② 路面整正/路面整正の実施延長	目標年度	平成20年度
			目標値	280 m
			実績値	193 m
		達成度	68.9 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①民間委託により実施	砂利敷委託は、入札により雄武ノースクリエート事業協同組合が実施した。また、路面整正は、砂利道を熟知しグレーダーの運転ができる運転手を抱えている雄武ノースクリエート事業協同組合より運転手を派遣してもらい実施した。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町道砂利道の円滑な通行を確保するためには、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、凹凸路面や砂利不足による通行が困難となり交通事故の原因となる恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、町道砂利道の凹凸の解消や砂利補充により円滑な通行が確保できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	砂利の補充材として、平坦部ではズリを使用したコスト縮減を図り、整備延長の確保が出来た。また、路面整正では、凹凸の少ない路線を省き、延長を縮小して事業費の抑制を図ったことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

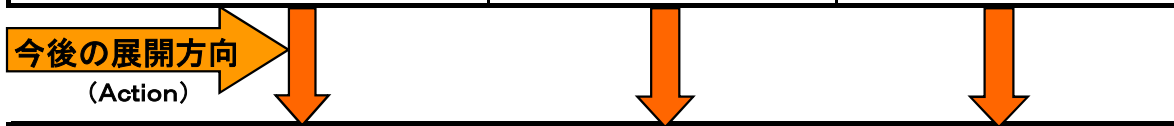
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	町道砂利道の円滑な通行が確保されたので、公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町道砂利道の安全な通行確保のためには、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
町道砂利道の安全な通行確保のためには、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 8

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		道路台帳補正更新事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	課長補佐
		氏名	大場利昭			氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、道路整備が終了した道路を道路台帳で更新整理することにより、適正な維持管理を行うための事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 22 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 6,950 千円 事業費計 6,950 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	16 交通体系の整備					
	単位施策	1 道路環境の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	3,497 千円	1,600 千円	1,550 千円	千円	千円	
	合計	3497 千円	1600 千円	1550 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	更新された道路情報を提供できない。	道路台帳補正延長			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路整備が終了した道路を台帳管理することで、適正な維持管理を目指す。	① 道路台帳補正延長 / 道路台帳補正延長の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	6775 m	
			実績値	7370 m	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な維持管理を実現できる。	②	達成度	108.8 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内容(どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による委託の実施	入札及び見積りにより民間に委託し、台帳補正更新を実施しています。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	道路整備が終了した道路を道路台帳で更新整備することには、適正な維持管理上、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、維持管理上支障をきたす恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、適正な維持管理が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	入れ及び見積りにより事業費が抑制され、概ね効率的に実施された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	道路台帳を更新整備することは、維持管理上必要であるので、公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道路台帳を更新整備することは、維持管理上、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
道路整備が完了した道路を維持管理する上で、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 9

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		東浜線他舗装補修事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		職名	課長補佐	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、経年による舗装の損傷を、オーバーレイすることにより、水溜まりや路面の凸凹を解消するための事業であります。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	事業費	千円
					国・道支出金		千円
					地方債		千円
					その他		千円
					一般財源	15,800	千円
					事業費計	15,800	千円
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	16 交通体系の整備					
	単位施策	1 道路環境の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	3,150 千円	3,300 千円	3,200 千円	3,000 千円	3,000 千円	
	合計	3150 千円	3300 千円	3200 千円	3000 千円	3000 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	水溜まりや凸凹路面による走行不快感。	舗装延長		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	道路の水溜まりや凸凹路面を解消し、車両の快適な走行を目指した。	① 舗装延長 / 舗装延長の実績	指標(指標計算式/解説)	
			目標年度	平成20年度
			目標値	470 m
			実績値	420 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	車両の快適な走行ができた。	②	達成度	89.4 %
			目標年度	
			目標値	
			実績値	
達成度				%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、車道の全面舗装補修を実施した。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	経年により舗装の損傷による水溜まりや凸凹を解消し、快適な車両の走行を確保し道路環境を向上することは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、車両の走行に支障をきたす恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	車道の全面舗装をすることは、快適な車両の走行を確保し道路環境の向上が図られる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	再生アスファルトの使用と入れにより事業費が抑制され、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	車道の水溜まりや凸凹路面の解消は、車両の走行に対し、概ね公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道路環境の向上のためには、今後も計画通り事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
水溜まりや凸凹路面の解消で、道路環境が向上することは、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 10

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	町道防雪柵設置事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐
		氏名	大場利昭		氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、主に郡部町道における除雪路線の円滑なる通行の確保と除雪事業の効率化を図るため、特に吹き溜まりの激しい箇所に防雪柵を設置する事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 11,050 千円 事業費計 11,050 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～				
	基本施策	16 交通体系の整備				
	単位施策	1 道路環境の向上				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	1,759 千円	2,210 千円	2,210 千円	2,210 千円	2,210 千円
	合計	1759 千円	2210 千円	2210 千円	2210 千円	2210 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	吹き溜まりによる交通障害。	防雪柵設置延長の維持			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	冬期間の吹き溜まりが激しい路線の円滑な交通を目指す。	① 設置延長/設置延長の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	940 m	
			実績値	665.42 m	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の吹き溜まり路線の交通及び安全性が確保される。	②	達成度	70.8 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内容(どのような手段で何を行ったか)					
①設置は民間業者による工事の実施	防雪柵の設置は、入札により民間に工事発注し実施した。				
②撤去費は直営で実施	防雪柵の撤去は、直営により機械をリースし、派遣運転手、添乗員及び雄武ノースクリエート事業協同組合作業員により3月中旬頃に実施した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	冬期間の吹き溜まりの激しい路線箇所には防雪柵を設置し、円滑な通行の確保と除雪作業の効率化のためには、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、吹き溜まりによる通行障害が発生する恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、円滑な通行の確保と除雪作業の効率化が図れた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	入れにより事業費が抑制できたことと設置路線の見直しにより事業費の抑制ができたことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	冬期間の吹き溜まりの激しい路線に防雪柵を設置したことは、その路線の円滑な通行確保ができたので公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り防雪柵を設置し円滑な通行が図れたことは、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
除雪路線の円滑な通行確保と除雪作業の効率化のために、吹き溜まりの激しい路線箇所の防雪柵設置は必要であり、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 11

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		道路区画線塗装事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		職名	課長補佐	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道の舗装路面において、車両通行により薄くなり見えにくくなった中心線や外側線を塗装し直し、車両や歩行者の通行の安全を確保する事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 4,000 千円 事業費計 4,000 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	20 防犯・交通安全の推進					
	単位施策	2 交通安全対策の推進					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	680 千円	800 千円	800 千円	800 千円	800 千円	
	合計	680 千円	800 千円	800 千円	800 千円	800 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	舗装道路の安全な通行が保てない。	塗装延長の維持				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	舗装道路の中心線や外側線を塗装することで、車両や歩行者の通行の安全を目指す。	① 塗装延長 / 塗装延長の実績	指標(指標計算式/解説)			目標年度及び実績値
			目標年度	平成20年度		
			目標値	7800 m		
			実績値	7390 m		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	車両や歩行者の通行の安全が確保される。	②	達成度	94.7 %		
			目標年度			
			目標値			
			実績値			
内容(どのような手段で何を行ったか)						
①民間委託により実施	住民生活課予算(住民活動費)と合算し、入札により委託発注し実施した。(H20総委託費: 1,680千円、実績塗装延長: 18,260m)					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	舗装道路の薄くなった中心線や外側線を塗装することは、車両や歩行者の通行の安全を図る上で、町が担う必要がある事業です。当該事業を実施しなかった場合、交通事故の原因にもなりかねません。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、薄くなった中心線や外側線がはっきり視認でき、交通の安全が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	入れにより事業費が抑制できたことと舗装道路の薄くなった中心線や外側線を調査し、必要路線の適切な塗装ができたことは、概ね効率的に実施できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	舗装道路の薄くなった中心線や外側線を塗装することで、車両や歩行者の通行の安全が図れたことは、公平であると考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
舗装道路の交通安全確保上、中心線や外側線塗装は、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
舗装道路の中心線や外側線がはっきり視認できることは、交通の安全確保のため必要不可欠であり、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 12

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		梅小路道路整備事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		職名	課長補佐	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道梅小路の行き止まりを解消し、地域交通の利便性と道路環境の向上を図るための事業であります。なお、当初大型工場が解体されてから実施予定でしたが、平成20年度にこの工場が解体されたことと2級河川ポンオコツナイ川の改修計画の中で、この箇所がオープン河川の計画であることから、橋梁設置を計画してもらうために急遽道路整備が必要になったため、平成20年度の補正により1部実施した事業であります。					全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 22 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 45,000 千円 事業費計 45,000 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()			
第5期総合計画(前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	16 交通体系の整備					
	単位施策	1 道路環境の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	17,430 千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	5,020 千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	1,300 千円	0 千円	19,980 千円	千円	千円	
	合計	23750 千円	千円	19980 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	地域交通の不便な通行状態。	道路整備延長			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	行き止まり道路の解消により、地域交通の利便性を旨す。	① 道路整備延長／道路整備延長の実績	指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	90 m	
			実績値	85 m	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域交通の利便性を高めることにより、快適な通行が図られる。	②	達成度	94.4 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内容(どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による委託及び工事の実施	入札により民間業者に発注し、道路整備を実施しています。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町道梅小路の行き止まりを解消することにより、地域交通の利便性の向上を図るためには町が担う事業であります。当該事業を実施しない場合、行き止まり道路が解消されなくなり、地域交通に不便さが残ったままになる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業は、河川改修に合わせた整備完了を目指しているもので、平成20年度の目標は達せられた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	入札により事業費が抑制されたことは、概ね効率的に実施された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	行き止まり道路を解消することは、地域交通の利便性を高めるためには、概ね公平であると考えられる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
河川改修に併せて行き止まり道路を解消するためには、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
河川改修と同時に完成させるためには、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 13

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		オタコムシュベツ川改修事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		職名	課長補佐	
		氏名	大場利昭		作成者	氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、草地への冠水を防ぐため、平成12年度より計画的に河川改修を実施している事業であります。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 20 年度)		
事業費	国・道支出金				千円		
	地方債				千円		
	その他				千円		
	一般財源		4,500		千円		
	事業費計		4,500		千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第5期総合計画(前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化					
	単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	4,305 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
	合計	4305 千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	豪雨、融雪出水時に草地への冠水。	河川用地の確定				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	豪雨、融雪出水時の草地への冠水防止を目指した。	① 用地確定測量延長／用地確定測量延長の実施	指標(指標計算式/解説)			目標年度 平成20年度
						目標値 630 m
						実績値 630 m
						達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害の未然防止が図れた。	②	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目標値
						実績値
						達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
①民間業者による測量の委託	入札により民間業者に委託発注し、河川用地の測量を実施した。					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	草地への冠水を防ぐため、計画的に河川改修を実施することは、町が担う必要がある事業であります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	豪雨や融雪出水時に草地への冠水を防ぐことが出来た。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的 課題あり	判断の理由	入札により事業費が抑制されたので、概ね効率的に実施された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

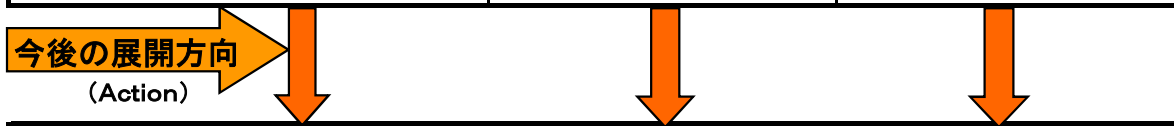
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	草地への冠水を防げたことは、概ね公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 河川改修事業を計画的に進めれたことは、災害防止上、適当であると判断する。		



終了 計画通り用地測量まで完了したので事業が終了した。		
--------------------------------	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 9 - 14

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		町内河川小工事代事業					
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長		作成者	課長補佐	
		氏名	大場利昭			氏名	佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町内河川の応急的補修等に対応するための事業であります。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 10,000 千円 事業費計 10,000 千円	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託		<input type="checkbox"/> その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化					
	単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化					
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	1,618 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	
	合計	1618 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	河川未補修による災害の拡大。	応急補修による安全確保			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内河川の応急補修等による現況復元を目指す。	① 応急工事の発注/応急工事の実績	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	平成20年度	
			目標値	2 件	
			実績値	2 件	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害の未然防止が図られる。	②	達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内容(どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による工事の実施	入札及び見積りにより、民間業者に工事発注し、補修等の工事を実施した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町内河川の応急的な工事により、災害を未然に防ぐことは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、豪雨時に河川決壊等の災害が起きる恐れがあります。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、決壊等の災害を未然に防ぐことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	入札及び見積り等により、事業費が抑制されたので、概ね効率的に実施された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

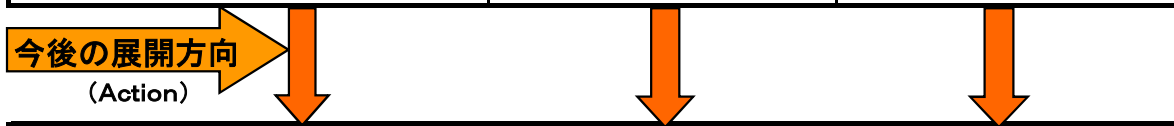
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町内河川の応急的な工事により、災害を未然に防げたことは、概ね公平であると考慮する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
災害の未然防止のため、応急的な補修等の工事ができることは、今後も応急に対し必要な事業であると判断する。		



継続／現状維持		
災害の未然防止のために、応急的な補修等の工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--